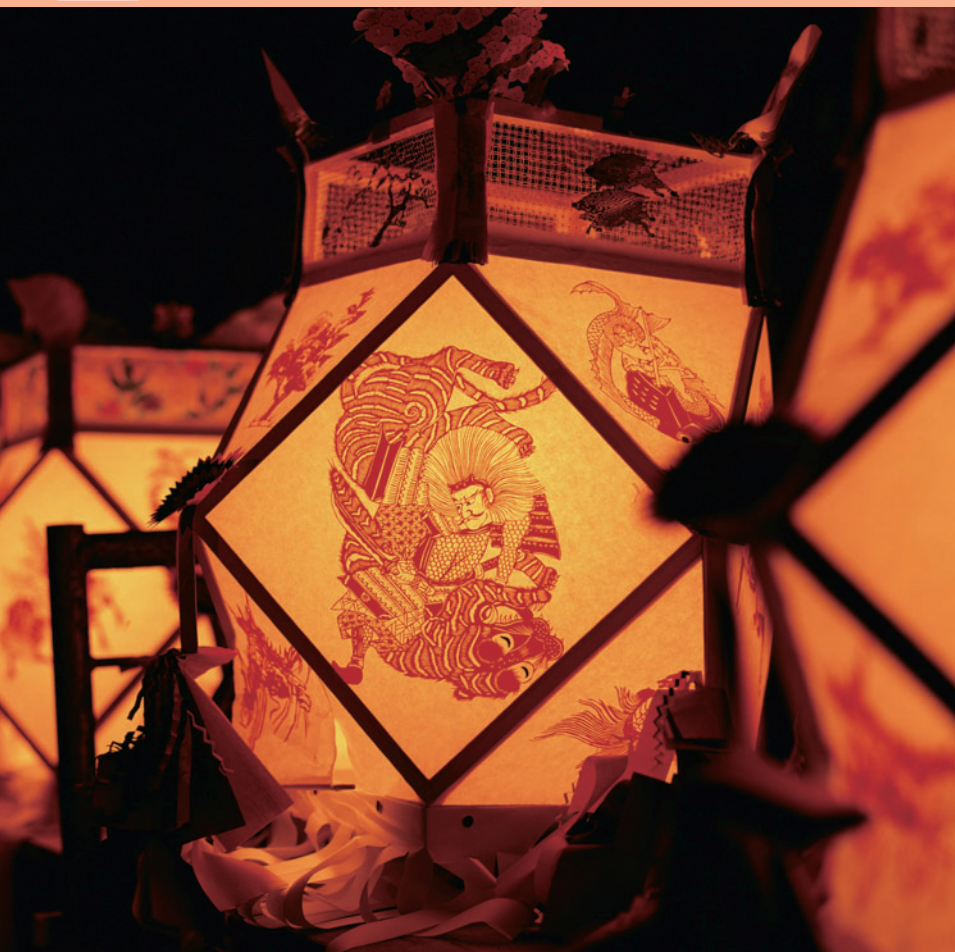


AUTUMN 2008

株 主 通 信

SCREEN NOW Vol. 68

特集 有機EL関連装置の開発に向けた取り組み



目 次

株主の皆さまへ	1
第1四半期決算レポート	3
クローズアップ ー有機EL関連装置の開発に向けた取り組みー	6
トピックス	9

大日本スクリーングループ

1 株主の皆さまへ



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素のご支援、ご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

まず、弊社第68回定時株主総会には多数の株主さまにご出席いただき、ありがとうございました。また、総会後に開催し

ました懇親会では、株主の皆さまの生の声をお聞かせいただく、貴重な機会を得ることができました。その際に頂きましたご質問は右コラムで紹介いたします。

2009年3月期第1四半期業績 (対象期間：2008年4月～6月)

この3ヵ月間は、原油価格の高騰や資源高、世界的な金融不安などにより、世界経済の減速感はさらに増しました。当社の事業環境に関しては、前期大きな赤字を抱えた液晶ディスプレイ製造装置の売上が、パネルメーカーによる積極的な設備投資を受け、前年同期に比べ増加しました。しかしながら、当社の売上をけん引する半導体製造装置においては、半導体メーカーによる設備投資抑制の動きから、売上、営業利益ともに大幅な減少となりました。このような結果、当第1四半期は売上高520億円、営業損益8億円の赤字となりました。

工場用地の取得

8月11日にすでに発表いたしました、当社は熊本県くまもと臨空テクノパークに工場用地を取得いたしました。これは製造拠点が京滋地区に集中することへのリスク分散とともに、将来の事業拡大に備えた生産体制の構築を目的としています。

取得用地の概要

所在地：熊本県上益城郡益城町 かみましき ましきまち くまもと臨空テクノパーク

面積：約24万平方メートル

投資額：第1期計画分として約100億円を予定

工場建設計画：2010年1月着工予定(第1期計画)

今後の見通し

世界的な景気減速の流れは当面継続すると予想され、企業にとっては大変厳しい試練のときとなります。第1四半期の損益は赤字という結果となりましたが、第2四半期以降、黒字を確保できるよう、全社を挙げてさらなるコストダウンを推進します。また、競合他社に負けないものづくりを行い、利益の伴った着実な成長を目指します。株主の皆さまから頂くご意見も大切にしながら、事業経営を進めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 最高執行責任者(COO)

橋本 正博

株主の皆さまのご質問にお答えします

ここでは第68回定時株主総会およびこの「SCREEN NOW」アンケートハガキで皆さまより頂きましたご質問にお答えいたします。

Q.

> 有機ELディスプレイに対する
取り組みについて教えてほしい。

A. 次世代ディスプレイとして注目されている有機EL
に対しても、積極的な研究開発を行っており、
米国デュポン社との共同開発も進めています。詳細につ
いては、6～8ページの特集をご覧ください。

Q.

> 太陽電池事業へは参入しないのか？

A. 当社は太陽電池向け測定装置の販売を開始し、
同事業への参入を果たしました。今後、検査装
置や塗布装置などの製品化により、太陽電池関連製品の
ラインアップ拡充を進めるとともに、色素増感型太陽電池
の製造技術の開発を推進していきます。詳細については、
9ページのトピックスをご覧ください。

Q.

> 株価が低迷している点が気になる。
既存事業のみならず、新規事業によって
利益の捻出をしっかりと行ってほしい。

A.

残念ながら、当社の株価は低調に推移しており、
経営者として非常に悔しい思いをしています。こ
の原因は世界的な金融不安や半導体市況の低迷などの
影響も考えられますが、当社が前期二度にわたる下方修
正を実施したことにより、市場からの信頼を損ねてしまっ
たことも一因であると考えています。ですから、業績予想
の確度を上げ、着実に計画を実行していくことが必要で
あると考えています。

また、市場から魅力ある会社として評価されることも重
要であると認識しています。そのためには、「技術のスク
リーン」として、さらなる企業努力を続けるとともに、新規
事業への参入など利益創出に向けた施策を強化してい
きます。株主の皆さまには長期的なご支援をお願いいた
します。

3 第1四半期決算レポート

2009年3月期第1四半期(2008年4月1日～6月30日)の連結経営成績をご報告します。

連結経営成績

(単位：億円未満切捨)

	2009年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	520	△25.0%
営業利益	△8	△118.2%
経常利益	△11	△126.7%
四半期純利益	△30	△243.1%

業績予想

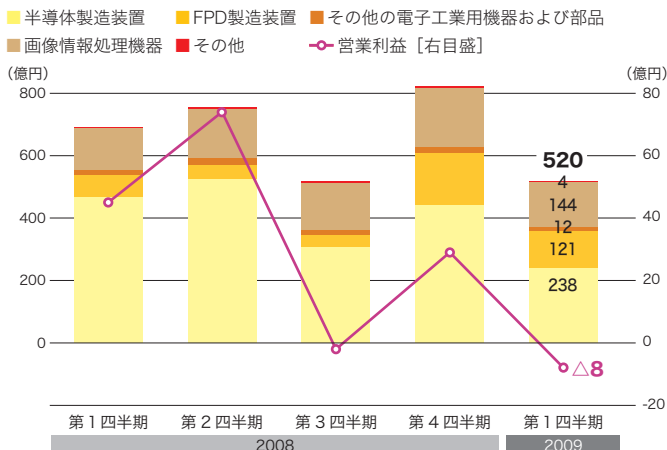
半導体メーカー各社が設備投資に慎重な姿勢を示すなど、当社を取り巻く環境は厳しい状況が見られますが、2008年5月12日公表の数値から変更ありません。

2009年3月期連結業績予想

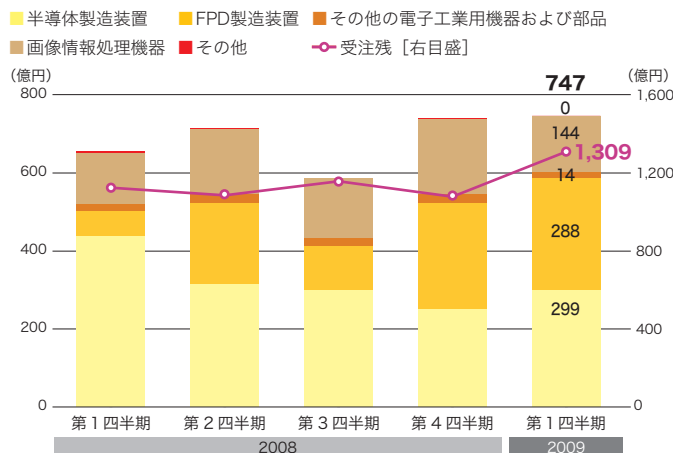
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期				
連結累計期間	1,230億円	38億円	12億円	△16億円
通期	2,730億円	127億円	95億円	32億円

※上記の業績予想は当社が2008年8月11日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

売上高・営業利益



受注高・受注残



主要セグメント別業績

電子工業用機器

売上高	372億円
営業利益	△13億円

画像情報処理機器

売上高	144億円
営業利益	4億円

用語解説

メモリー:半導体の一種で、データを記憶する。

枚葉式洗浄装置:ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。

バッチ式洗浄装置:複数のウエハーを一括で処理できる洗浄装置。

コータ・デベロッパ:半導体の場合はウエハーに、液晶パネルの場合はガラス基板にフォトレジスト(感光液)の塗布や現像処理を行う装置。

CTP: Computer to Plate の略。印刷するデータをフィルムを用いずに、コンピューターからプレート出力機を用いて、プレート(印刷版)に直接出力する方式。

POD: Print on Demand の略。必要なときに必要な部数のみ印刷すること。

インクジェット:インクの微細な粒子を吹き付けて印刷する方式。

半導体製造装置: 238億円

メモリー価格の下落により、前下期に引き続き半導体メーカーの設備投資が抑制された影響を受け、前年同期に比べ売上が大きく減少しました。製品別では、枚葉式洗浄装置は比較的堅調に推移したものの、バッチ式洗浄装置の売上は大きく減少しました。また、関連会社から生産を受託しているコータ・デベロッパの売上も減少しました。

FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置: 121億円

液晶パネルメーカーの設備投資が再開され、液晶用コータ・デベロッパを中心に前年同期に比べ売上が大きく伸びました。

その他の電子工業用機器および部品: 12億円

半導体製造装置:

売上が大幅に減少したことから、赤字となりました。

FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置:

売上が前年同期に比べて回復したことから黒字となりましたが、利益率は低調に推移しました。

海外向けを中心にCTP(Computer to Plate) 関連製品が前年同期に比べ売上を伸ばすとともに、POD(プリント・オン・デマンド)を可能にするデジタル印刷機も売上に貢献しました。また、産業用大型インクジェットプリンターも前年同期に比べ売上を伸ばしました。営業利益につきましても、堅調に推移しました。

決算Q&A

2008年8月に開催された、機関投資家・アナリストさま対象の2009年3月期第1四半期決算説明会における質疑応答を掲載します。

Q. 半導体製造装置の受注状況について知りたい。

A. 2008年4～6月期の受注額は想定よりも増加し、299億円となりました。7～9月期の受注額は、メモリーメーカーによる投資再開の動きや、ロジックメーカーの堅調な設備投資が予測されることから、一段の増加を期待しています。ただし、当社がターゲットとする四半期受注額400億円への回復は下期以降であると予想しています。

Q. FPD製造装置の受注状況について知りたい。

A. 2008年4～6月期の受注額は288億円と高い水準を維持しました。一部、前倒しで受注した案件もあり、7～9月期の受注額は減少すると予想していますが、上期合計としては期初予定どおりです。



Q. 「Truepress Jet(トゥールプレスジェット)520」などインクジェット印刷機の販売状況は？

A. インクジェット印刷機の売上は順調に推移しています。中でもバリエブルインクジェット印刷機「Truepress Jet 520」は、画像情報処理機器事業の売上に占める割合が小さいものの、前期と今期の上期を比較して、出荷台数が1.5倍に伸びる見込みです。また、グループ会社のインカ・デジタル・プリンターズ株式会社が製造する、産業用大型インクジェットプリンター「Onset(オンセット)」の売上も着実に伸びており、今後のさらなる売上拡大が予想されます。

Q. 有機EL関連装置の売上が収益に寄与するタイミングは？

A. 現在のところ、2010年に100億円の売上を予測していますが、お客さまからの評価も高く、納入時期が早まる可能性があります。有機ELディスプレイ製造装置については今後の事業展開に大きな期待を持っています。

今回は、多くの株主さまからご質問をいただきました有機ELディスプレイについてご紹介します。次世代ディスプレイとして注目される、有機ELディスプレイの特徴、現在の課題ならびに当社の独自技術「ノズルプリンティング法」についてご説明します。

有機ELディスプレイの特徴

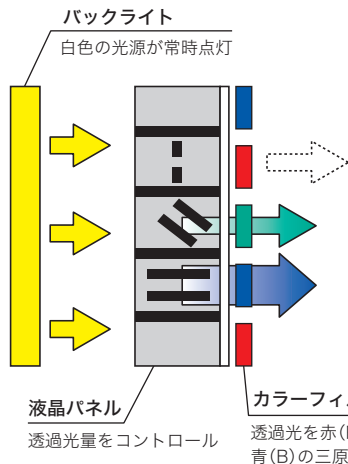
有機ELディスプレイは、電流を加えると発光する有機材料を用いたディスプレイです。材料自体が発光するので、液晶ディスプレイのように背後から光を照らすバックライトが不要であり、大幅な薄型化が可能です。また、コントラスト(明暗)比、

消費電力、画像の高速応答性の面でも優れており、次世代ディスプレイとして有望視されています。現在の用途としては携帯電話、携帯音楽プレーヤー、車載オーディオ機器の表示パネルなど中小型ディスプレイに限られていますが、2007年末には世界初の有機ELテレビが発売され、今後、大型化に向けた開発が加速していくものと予想されます。さらには、折り曲げることができるフレキシブルデバイスの開発も実現可能ではないと言われており、私たちの生活に劇的な変化をもたらす可能性を持っています。

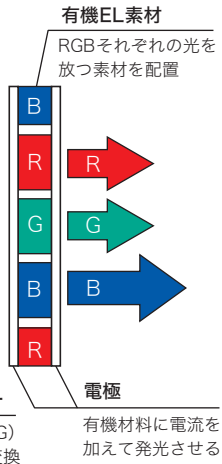
調査会社のディスプレイサーチによると、2008年の有機EL市場は、451百万米ドル(約500億円)と推定され、7年後の2015年には4,848百万米ドル(約5,300億円)まで成長すると予測されています。

しかしながら、有機ELディスプレイは、その寿命の短さが課題として指摘されているほか、従来の生産プロセスでは

■ 液晶テレビの仕組み



■ 有機ELテレビの仕組み



■ 有機ELディスプレイ

特長

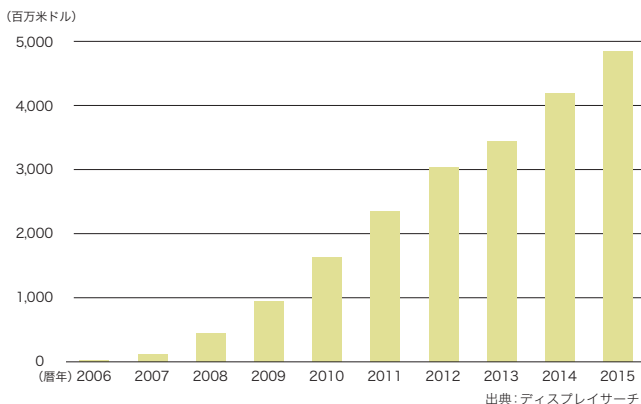
- 高コントラスト
- 応答速度が速い
- 視野角が広い
- さらなる薄型化も可能

解決すべき課題

- 発光効率
- 寿命
- 大型化に向けた量産コスト

コスト面での課題が大きく、薄型テレビ用など大サイズ型ディスプレイの開発・生産を困難にする大きな要因となっています。液晶・プラズマディスプレイに次ぐ、次世代ディスプレイとして一般的に普及するためには、これらの課題を解決していかねばなりません。

■ アクティブ型有機EL市場予測



有機ELディスプレイ製造プロセス

有機ELディスプレイの製造では、基板上に有機EL材料の薄い膜を均一につくる工程・技術が重要となります。現在主流の真空蒸着法では、真空の状態にした装置内で有機材料を蒸発させ、マスクを通して基板に膜をつくります。この方法の場合、使用する有機材料の扱いおよび量産が比較的容易であるという利点がありますが、マスクにも材料が付着して無

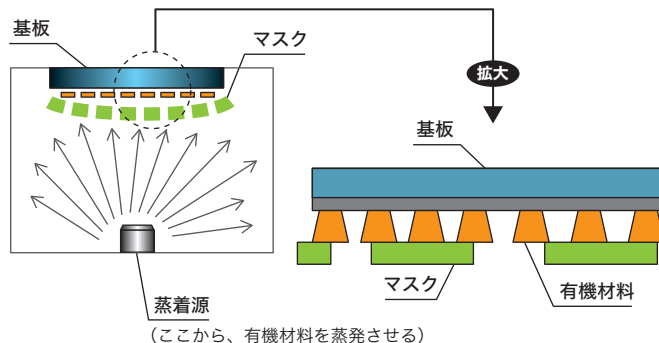
駄になるほか、マスクの位置合わせが容易でないことと真空装置のサイズに限界があるため、有機ELの大型化が困難であるという欠点があります。

このほか、インクジェット技術を用いて基板に材料を吹き付ける方法も開発が進められています。こちらはマスクが不要なため材料効率が高く大型化に適しているという特長はありますが、ノズルの液滴制御や吐出の安定性と位置制御に課題を残しています。

当社独自の「ノズルプリンティング」技術

当社は半導体・液晶製造装置で培った塗布技術を活用し、微小ノズルから有機材料を吐出してガラス基板に均一な薄膜を形成する「ノズルプリンティング法」を開発しています。ノズルプリンティング法は、髪の毛の半分ほどの細い溝に高精

■ 真空蒸着法



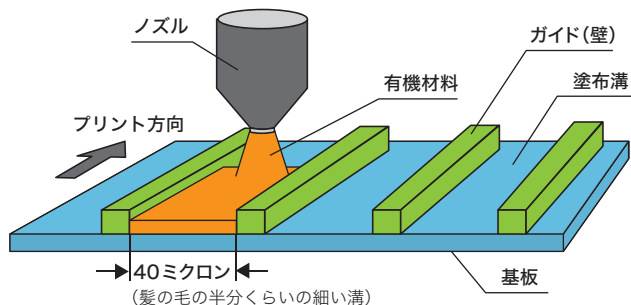
度に材料を塗布する方法で、マスクを必要とせず、しかも複数のノズルを使って一度に塗布できます。真空蒸着法と比べて材料を効率よく使用し、吐出安定性を実現できるため、生産コストの大幅な削減が可能です。さらに、真空蒸着法では不可欠であった真空環境が不要であることに加え、デバイスの位置合わせも容易なことから、10インチ以上の大型有機ELディスプレイの製造に適しています。

共同開発を推進

当社は2008年5月に米国デュボン社と有機ELディスプレイ製造技術の開発に関する提携に合意し、共同開発を進めています。デュボン社は同社が持つ独自の有機EL材料と製造プロセスの開発を担い、当社はノズルプリンティング技術を搭載

■ ノズルプリンティング法

- ✓材料使用効率が良く、低コスト
- ✓パネルの大型化に対応可能



した塗布装置「ノズルプリンター」を核とする製造一貫ラインの開発に取り組み、両社の技術を融合した塗布方式による有機EL製造方法をデバイスメーカーに提案していきます。

これらの共同開発を推進することで、当社は有機EL関連装置の開発を加速し、積極的に事業展開を図るとともに、有機ELディスプレイの大型化・量産化の実現に貢献していきます。

開発者の声



FPD機器カンパニー
彦根工場 製品開発部
上野 雅敏

大サイズの試作機の開発に着手して3年。装置の評価結果に一喜一憂しながらも、地道な研究を重ねてここまでたどり着くことができました。中でも、髪の毛の半分くらいの細い溝にきっちり材料を塗布させたり、ノズルからEL材料を流量のバラつきなく、安定吐出させたりするには大変な苦勞が伴いました。しかしながら、さらなる大サイズ化に向けては、まだまだ課題が山積みです。これらの課題を克服し、有機ELディスプレイ製造装置のグローバルスタンダードとしてノズルプリンティング装置がユーザーに認知されることを目指します。

Topic 1

Silicon Light Machines社を買収

MEMS技術を駆使したデバイス開発を行うSilicon Light Machines社(本社:米国・カリフォルニア州/以下、SLM社)の買収を完了しました。

SLM社は、シリコンバレーを拠点とするベンチャー企業として、1994年に設立以来、最先端技術の開発に取り組み、GLV™に代表される世界有数の独創的なテクノロジーは、世界的に高い評価を得ています。

今後、SLM社の持つ光学MEMS分野における世界屈指の技術と、当社の画像情報処理技術をはじめとするコア技術との融合を図り、半導体・フラットパネルディスプレイ・プリント配線板の各事業などへの積極的な応用展開により、新事業の創出を目指していきます。

● 詳細はこちら⇒<http://www.screen.co.jp/press/NR080702.pdf>

用語解説

MEMS:Micro-Electro-Mechanical Systemsの略。半導体製造技術を応用した微小な電子機械システム、および関連技術の総称。プロジェクターの光学素子や、インクジェットプリンターのヘッド部、各種センサーをはじめ、幅広い分野で活用されている。

GLV™(Grating Light Valve™):MEMSの技術と光の干渉性を利用して、光の向きや強度を制御する表示素子。

Topic 2

太陽電池関連業界へ参入

当社は、2008年7月30日～8月1日に開催された日本最大級の太陽光発電に関する総合イベント「PVJapan 2008」への出展を機に、太陽電池パネル用膜厚測定装置の販売を開始し、太陽電池関連業界へ参入しました。

さらに今後、自動ムラ検査装置、外観検査装置などの製品化を図っていくほか、インクジェットやノズル吐出の技術を利用した「塗布技術」や、色素増感型太陽電池向けの製造技術などの開発を推進していきます。



分光エリプソ式膜厚測定装置
「RE-8000」

● 詳細はこちら⇒<http://www.screen.co.jp/press/NR080723-2.pdf>

用語解説

太陽電池パネル:太陽光発電に用いる太陽電池を、必要な電圧と電流が得られるように多数接続したパネルのこと。

色素増感型太陽電池:色素が光を吸収して電子を放出することにより発電する次世代型の太陽電池のこと。従来のシリコン型太陽電池に比べて、色や形状の自由度が高いほか、安価にできて量産しやすいという特性があるものの、変換効率の低さなどの課題が残っている。

Topic 3

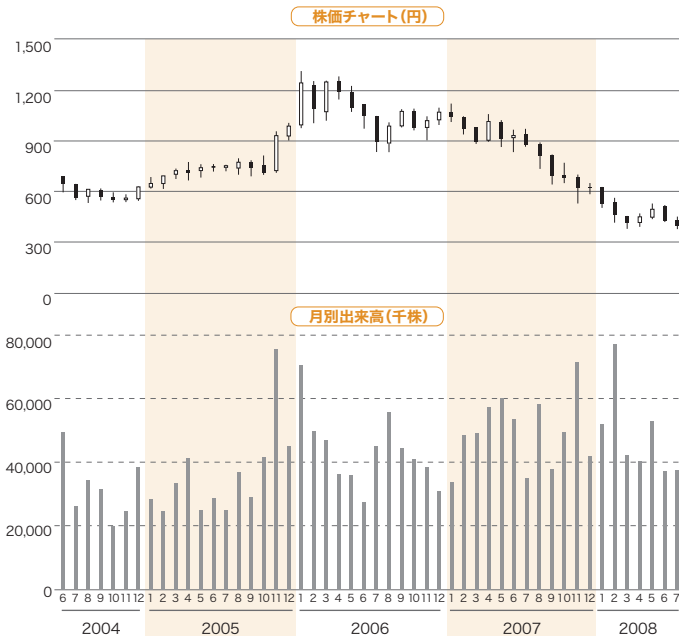
海外IRツアーを初開催

2008年6月に機関投資家、アナリストの方々に当社に関連する展示会、事業所へご案内するIRツアーを初めて開催しました。具体的には、4年に一度開催される世界最大の印刷機材展「drupa 2008」（ドイツ）、当社も半導体分野で参画する欧州最大の独立研究機関「IMEC」（ベルギー）および産業用大型インクジェットプリンターの製造を担うグループ会社「インカ・デジタル・プリンターズ株式会社」（イギリス）にご案内しました。ご参加の方々には当社の事業内容、今後の取り組みをご理解いただくことができました。中でも、当社が注力するインクジェット技術について、その将来性を実感していただくことができました。

drupa当社ブースの様子



株価および出来高の推移



当社ウェブサイト「IR情報」を活用ください!

当社は、多くの株主・投資家の皆さまにご利用いただけるよう、ホームページの充実を図っています。また、IR情報をはじめとする当社の最新ニュースをメールでお知らせする「IRメール配信サービス」も実施しています。ぜひご利用ください。

「IR情報」トップページ <http://www.screen.co.jp/ir/>

メール配信サービスのご登録はこちら⇒ <http://www.screen.co.jp/ir/mail/>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 (当社は中間配当制度を採用しておりません。)
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.screen.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜二丁目2番21号(〒541-0041) 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	東京(第1部)、大阪(第1部)
証券コード	7735

株券の電子化に関するお知らせ

2009年1月に、当社をはじめ上場会社の株券が電子化される予定です。

お手元に株券をお持ちの株主さまは、ご本人の名義になっているかご確認ください。ご本人の名義になっていない場合は、株主としての権利を失う恐れがありますので、至急、名義書換のお手続きをお願いいたします。

※名義書換のお手続きにつきましては、証券会社もしくは当社の株主名簿管理人までお問い合わせください。

ご案内

- (1) 便利で確実な口座振込による配当金のお受取りについて**
より早く、確実に配当金をお受取りいただくために、銀行預金口座またはゆうちょ銀行貯金口座への振込によるお受取りをお勧めしています。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、株主名簿管理人中央三井信託銀行株式会社に指定用紙をご請求ください。
- (2) 単元未満株式の買取および買増について**
単元未満株式(1,000株未満)をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことができます。
【買取請求】 単元未満株式の買取り
【買増請求】 単元株式(1,000株)に不足する株式の買増し
お手続きなどの詳細につきましては、中央三井信託銀行株式会社までお問い合わせください。
なお、証券保管振替制度をご利用の場合には、お取引の証券会社へお問い合わせください。
- (3) フリーダイヤルのお知らせ**

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。なお、単元未満株式買増請求につきましては、左記の同事務取扱場所までお問い合わせください。

フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

SCREEN

「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用し、デジタル印刷機「Truepress」で印刷しております。

SCREEN NOW No.68 発行日:2008年9月26日(発行は3月、6月、9月、12月)
発行:大日本スクリーン製造株式会社IR室 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1 電話075(414)7111
ホームページアドレス:<http://www.screen.co.jp/> 証券コード7735

しゃめんちおどり
表紙の写真：赦免地踊

毎年10月、秋元神社で行われる洛北の奇祭。切子型灯籠(写真)を頭上に載せた少年たちが、踊りを奉納する。



本誌は、再生紙を使用しています。
IR-SN-68